

中村元 慈しみの心

1 総合

山陰中央新報

中村元 慈しみの心

No.238

他は是れ吾に^{わが}あらず、さらに何れの時をか待たん。
(道元)

△解説▽道元が中国の天童寺で修行していた時、老僧が炎天下に椎首を干していた。若い者にさせればいいのにと道元に、老僧は典座職(僧院の料理責任者)にあるものとしての私の仕事であり、「他人に代わりようがない」と教えた。職業倫理の問題ではない。人間として「ここ」に「ある自らの「生」を全うする仏教の生き方である。道元は感激してこの挿話を伝えている。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.7.2 中村元記念館協力

2016年(平成28年)7月2日(土曜日)

中村元 慈しみの心

No.237

鹿を打つは慈悲なきに似たれども、内心の道理、慈悲余れる事是のごとし。
(道元)

△解説▽恵心僧都の挿話である。庭に入り込んで草を食んでいた鹿を僧都は棒で打ち払わせた。叩くことはないだろうに、という人もいたが、僧都はこうして鹿が人に慣れると、そのうち心ない人が殺してしまうだろう。そうならないように打ち払わせたのだと答えた。その細やかな慈悲心を道元は賞賛している。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.7.1 中村元記念館協力

2016年(平成28年)7月1日(金曜日)

中村元 慈しみの心

No.240

そなたは面白い物を生まれ付かれたの。今も短気がござるか、あればここへ出さっしゃれ、直して進ぜう。
(盤珪)

△解説▽現代の禅僧が「絶望している、救ってくれ」と訴えた青年に「お前の絶望とやらを出してみろ」と迫ったというエピソードがある。同趣旨の発言を江戸中期の禅僧である盤珪がしている。短気は一時の感情である。直そうと思えば自分で直せる。いや、自分でしか直せない。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.7.4 中村元記念館協力

2016年(平成28年)7月4日(月曜日)

中村元 慈しみの心

No.239

貪るひとびとのあいだにあって、われらは貪らないでいとも楽しく生きていこう。貪っている人々の間にあって、われらは貪らないで暮らそう。
(ブツダ)

△解説▽欲望のない人間はいない。誰にも自分の望みがあって、実現しようと努力している。しかし、欲望の度がすぎると貪りになる。貪りは欲求不満の源泉で、自分を苦しめる。だから幸福のためには自らの欲望を調えよとブツダは説いている。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.7.3 中村元記念館協力

2016年(平成28年)7月3日(日曜日)

中村元 慈しみの心

1 総合

山陰中央新報

中村元 慈しみの心

No.242

命なりけり 小夜の中山 (西行)
年たけてまた越ゆべしと思ひきや
命なりけり 小夜の中山 (西行)
△解説▽その頃は鈴鹿、箱根と並んで小夜(佐夜鹿)の中山(静岡)は難所といわれた。西行は若い時にここを苦労して越えたが、69歳になって、思いもよらず、再びここを越える。昔を思い出しつつ、西行は自分の生き抜いてきた長い年月を有り難く、なつかしく、そしてしみじみと思い起こしている。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.7.6 中村元記念館協力

2016年(平成28年)7月6日(水曜日)

中村元 慈しみの心

No.241

かの三時の悪業報かならず感ずべしといえども、懺悔するがときは重を転じて軽受せしむ。また滅罪清浄ならしむるなり。善業また随喜すればいよいよ増長するなり。(道元)
△解説▽悪業報とは悪いことをしたと自分で後悔し、心が傷ついている過去の行為の果報である。それは必ず現れるが、しかし、それに耐えつつ、正しく生きる「懺悔の生活」を自覚的に続けることによって軽減され、のりこえられる。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.7.5 中村元記念館協力

2016年(平成28年)7月5日(火曜日)

中村元 慈しみの心

No.244

無事是れ貴人なり、ただ造作するとなかれ。(臨濟録)
△解説▽中国唐時代の臨濟禪師の言葉。「無事」とは平凡なこと。禅僧として何か目立つ特別のことをしていないが、おのずと禅僧としての生き方にならっている。禅僧の臭みがない禅僧というべきか。それが「貴人」だという。現代にも一見平凡に楽々と仕事をこなしている人がいる。大変な努力と鍛えられた技術と自信がその人の内にある。外からは見えない。だから貴人である。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.7.8 中村元記念館協力

2016年(平成28年)7月8日(金曜日)

中村元 慈しみの心

No.243

飲み友達なるものがある。君、君と呼びかけては「我らは親友だ」という。しかし、なにか事が起こったときに助けてくれる人こそが真の友人である。(ブッダ)
△解説▽飲み友達にも、きちんと生きながら、共に人生を語る仲間はある。しかし、悪友もいる。ブッダは次の4種を指摘している。「たかる友」「言葉だけの友」「うまく取り入れるだけの友」そして「遊蕩仲間(遊蕩)の友」である。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.7.7 中村元記念館協力

2016年(平成28年)7月7日(木曜日)